

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500473		
法人名	ふく福介護 株式会社		
事業所名	グループホーム 吉兵衛どんの里 (こもれびの詩)		
所在地	〒803-0279 福岡県北九州市小倉南区徳吉南3丁目16番17号 TEL 093-453-3515		
自己評価作成日	平成30年08月20日	評価結果確定日	平成30年10月02日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご入居様に「季節を感じて頂く」を理念に掲げ、日々の食材や食卓の花・居間の壁の手作りの装飾・四季折々イベント行事を通じて、全職員が毎日のケアに取り組んでいる。中でも、食事の提供には、職員の発案による様々な工夫が凝らされていて、ご入居者様の楽しみの一つとなっている。例えば、春の花見弁当、夏のソーメン流し・おでん、冬の鍋料理・おせち、等。また、毎月、パンバイキングの日・資さんぼた餅の日・虎屋のパンの日も設定している。毎年、町内会長の協力のもと耕運機で耕していただいている敷地内の畑からは、食べきれないほどのトマトやスイカ等が、ご入居者の手で収穫され、食卓を賑わしている。当ホームでは、ご入居者様と職員が地域の一員となり、地域の行事に参加し、又ご家族様や地域の方にホームの行事に参加頂いたりして、日常的に交流を図っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年09月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で、構築した理念をホーム内に掲示し、認知症の人をケアするうえで向かうべき方向性を示し、認知症の人の立場に立ってその人が安心・安全に幸福に暮らすことを目指すことができるよう、常に職員が意識し、理念を共有している。そしてそれを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に一回の運営推進会議、グランドゴルフ大会や地域の運動会・敬老会の参加、毎月1・15日に祠掃除、古紙回収、中学校の職場体験、消防訓練、又ホームの行事(バザー・餅つき等)にも地域の方々に参加していただき、町内会にも加入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校の生徒の職場体験の中で管理者が、認知症への認識と理解を深めてもらう為に、講義を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催される運営推進会議にはご入居者様も参加し、現状と取り組みを報告し、アドバイスや意見、情報を頂き、そこでの意見を全体会議で職員に報告し、話し合い、サービス向上に繋げ実践に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小倉南区役所の保護課・介護保険福祉課の職員の方とは、定期的に訪問し、ホームの情報提供や意見を伺ったりして、関係を保っている。また、地区の地域包括せんたーの職員の方とも、運営推進会議以外でも協力関係を保持している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時と、職員の全体会議で、全職員へ「禁止の対象となる具体的な行為」の理解を求めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、学ぶ機会を持っている。ご入居者様の様子や、心身、会話の中に変化が無いのか、常に注意を払っている。また、三ヶ月に一回身体拘束委員会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用に必要な資料・パンフレットを準備して、関係機関へ申請できる環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結・解約・会提示には、十分な時間をとって、ご家族とご本人様へ説明させていただき、理解、納得をさせていただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回だが、家族会を開催して、管理者や職員に、ご家族が意見・要望が言える機会を設けている。また、玄関には「ご提案ボックス」を設置していて、常に意見・要望が表せる環境が出来ている。キーパーソンへケアプラン説明時にも、意見・要望を直節聞いている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催される職員の全体会議の中で提案する機会がある。管理者が本部会議で直接代表・本部関係者に報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場や施設の設備・環境を直接見て少しずついいので、改善して欲しい。また、昨年9月には初めて昇給があった。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集採用は、年齢・性別・国籍による差別は一切無い。現在の職員も、22～67歳と幅広い年齢層である。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に、北九州市の人権研修に職員が参加。それを、職員会議で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験を配慮しながら、北九州市の研修を受講できるよう取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者とケアマネージャーの人脈で、ほか事業所の同業者が見学に來たり、また、こちらから行ったりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、管理者とケアマネージャーが面接を行いニーズを汲み取り、ケアプランに組み込んでいる。入居初期には、特にご入居者様の話を傾聴している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、管理者とケアマネージャーが面接を行いニーズを汲み取り、ケアプランに組み込んでいる。入居初期には、ご家族へ毎朝、ご入居者様の様子を報告している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、何を必要としているのかを見極め、近隣のほかの施設を案内する事もある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、畑仕事をしたりして、職員が「一緒に生活する。」というスタンスで、ケアに取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に來られた際に、居室まで職員が出向き、近況を報告している。もちつきやソーメン流しなどさまざまなイベントにも、ご家族に参加していただき、職員と家族も交流をはかり、人間関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人等の面会時には、ゆっくりと触れ合い 歓談できるように配慮している。馴染みの場所への ドライブ、ご本人が希望すれば、いつでも手紙や電 話をかけられるように案内を掲示し、支援をしている。 ホーム周辺の「長行史跡マップ」も掲示し、ご入居者 になつかしんでもらえる工夫をしている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	食事の際には、ご入居者様の間に職員が入り、コ ミュニケーションできるように支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族との挨拶のやり取りが継続してい る。街中で、職員が会う事もよくあり、気軽に声を掛 け合っている。ご家族から入居希望者の紹介もあつ た。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している	ご入居者様一人ひとりの思いや希望について、家 族の協力を得ながら、センター方式を用いて把握に 努めている。意思表示が困難な場合には、毎日の 生活の中での表情より、心のうちを推察したり、何を 求めているかを考え、ご入居者様の希望に近づけ るよう心がけている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	ご本人、ご家族様はもとより、前の担当ケアマネ ージャーや、利用されていた介護施設の職員などから 話を聞き、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントを用いて、現状把握に 努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ご家族とご入居者様の意向を十分に聞き取り、三 か月ごとにカンファレンスを開催し介護計画に反映 させている。また、主治医・歯科医・薬剤師・現場の 職員からの意見も介護計画に反映させている。ご家 族等、来館されたときにも近況報告し、意見・支持 等を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護記録は、文字の下に青いアンダーラインを引き、ケアを行っている。連絡ノートと一日2回の申し送りで、ご入居者様の小さな変化も、職員間で情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多忙な家族に代わり、通院の支援や買い物同行を随時行っている。「髪を染めたい」「虎家のあんぱんが食べたい」「資さんのぼた餅が食べたい」「ご本人の誕生日に食べたいメニュー」というご入居者様のご希望にも、即時、かなうように努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の運動会・敬老会・ゲートボール大会等には、ご入居者様・職員が毎回参加し、地域の一員として、交流もはかっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様とご家族の希望する主治医の毎週の往診はもとより、特変時には随時往診。また、24時間オンコールで、安心できる医療連携体制が構築できている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ介護職員が気楽に報告・連絡・相談している職場環境にあり、それを実践している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、小倉北・南区内の病院の地域連携室のSWを定期的に訪問して、ホームの現状を報告し、人間関係が構築できている。実際、入院時には、入院先の主治医・SWと更なる連携をとり、頻繁に見舞い、早期に退院できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全てのご入居者様とご家族へは、ご入居時に、看取り介護の方針を説明し、了解していただいている。重度化しそうな場合には、主治医主導のもと、ご家族、職員三者いっしょとなり、話し合いを行い方針を決め共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に研修でスキルアップを図り、ミーティング時には、看護師・管理者により随時、実践訓練をおこなっている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、年二回、消防署立会い・指導の下、地域の方々にも参加いただいで、総合訓練を行っている。そのうち一回は、夜間想定訓練を実施している。防災計画を火災・水害・地震ごとに作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのご入居者様に対し、常に年長者としての敬意を払い、否定することなく受け入れた上で、その方に合わせた声かけや羞恥心の配慮に努めている。また、同じ目線での対応に心がけている。全職員には、入社時に個人情報の取り扱いや職員の守秘義務遵守について、徹底をしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベント時の献立は、全ご入居者様一人ひとりにアンケートに答えていただき、それを実際に反映させている。また、いろいろな希望が気軽に言える環境づくりを目指しており、「チャンポンが食べたい。」「赤飯が食べたい。」などの声としてあがり具現化している。外食時の際は、メニューから各自選んでいただいている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのご入居者様のペースを軸にして、ご本人の希望を第一に支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一回、定期的に10年来の馴染みの理容師の方に来ていただき、髪をカットしていただいている。髪染めを希望される方には、職員が入浴時に個別対応している。通販で衣類を購入できるようにも支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プラレールを使った回転寿司、パンやおでんのバイキング、本格竹を使用したそうめん流し、畑で出来た野菜をご入居者様と一緒に収穫・準備したりと喜んでいただけるよう工夫している。そうして、職員も共に楽しめるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を、細かく正確に記録に落とし込み、一人ひとりに応じた目標量を撰って頂いている。食事の形態も、個人個人の一日後との状況により、柔軟に変え提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士から指導・助言を仰ぎながら、強調して、個人個人に応じた口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力でどこまで出来るかを考え、ご入居者様の排泄パターンを把握して、極力歩行にてトイレに行き、筋力低下を防げるように支援している。要介護5の方もトイレで排泄されている。また、早めの声かけによるトイレ誘導で失敗を少なくし、自立に向けた支援も行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・看護師の指示の元、服薬でコントロールしたり、毎日の歩行訓練で予防を行っている。水分摂取はもちろんのこと、乳製品を頻りに摂取していただいている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様一人ひとりの、その日の体調や気分、タイミングに合わせて3日に一回ご入浴していただいている。湯加減や入浴順もご入居者様ごとに常に配慮している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転されたご入居者様へは、改善を目指し、全職員がチームとして声かけを行い、安眠できるよう努力している。昼寝の習慣のある方へは、声かけを行い休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、服薬状況を確認してケアにあたっている。誤薬なき様に、3重の確認を行っている。ご入居者様の状況によっては、薬剤師の指示の元、粉末でも提供。服薬後の、状況変化も確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食事時の号令かけや調理の補助・食事前の味見係、カレンダーめぐりなど個々に応じた役割を担っていただいている。2日に一回は、カラオケをおこなっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年二回地域の方々の協力と理解を頂きながら、うどん屋やファミリーレストランへ食事に行く支援を行っている。日常的には、天候やご入居者様本人の体調や希望を考慮して、敷地内の祠・畑・花壇へ行かれたりしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、個別に買い物にお連れしている。また、ガレージセール開催の時に自由にお金を使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングには、「電話や手紙の支援」ができる旨の掲示を掲げ、呼びかけている。携帯電話を持参され、自由に家族に電話をしているご入居者様もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には、季節ごとの飾り付け(鏡餅・雛人形・鯉のぼり・七夕飾り・クリスマス飾り等)で、季節感を訴求している。また、「昭和」を感じていただける品々がさりげなく置かれ、ご入居者様にとっては、居心地良いスペースとなっている。また、10年以上たっているの で、水回りや居室のエアコン・トイレ等の扉を点検していただきたい。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに置かれたソファで、一人でくつろがれたり、数人で談笑されている。隣接する畳の間では、一人で横になられたり、静かに過ごされる光景がよく見られる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、ご入居者様が使い慣れた家具・寝具・鏡台・家族の写真等を持ち込んでいただくようにご家族へお願いし、実際、品々が居室のあちこちに点在し、居心地良く過ごせるようになっている。ご入居者様と職員と一緒に居心地良く過ごせる空間作りをする。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどへの表示は、ホーム内各場所へわかりやすく、ご入居者様の目線に対応させ、行っている。		